

第2期保健事業実施計画(データヘルス計画) 健康課題、目標をイメージするシート

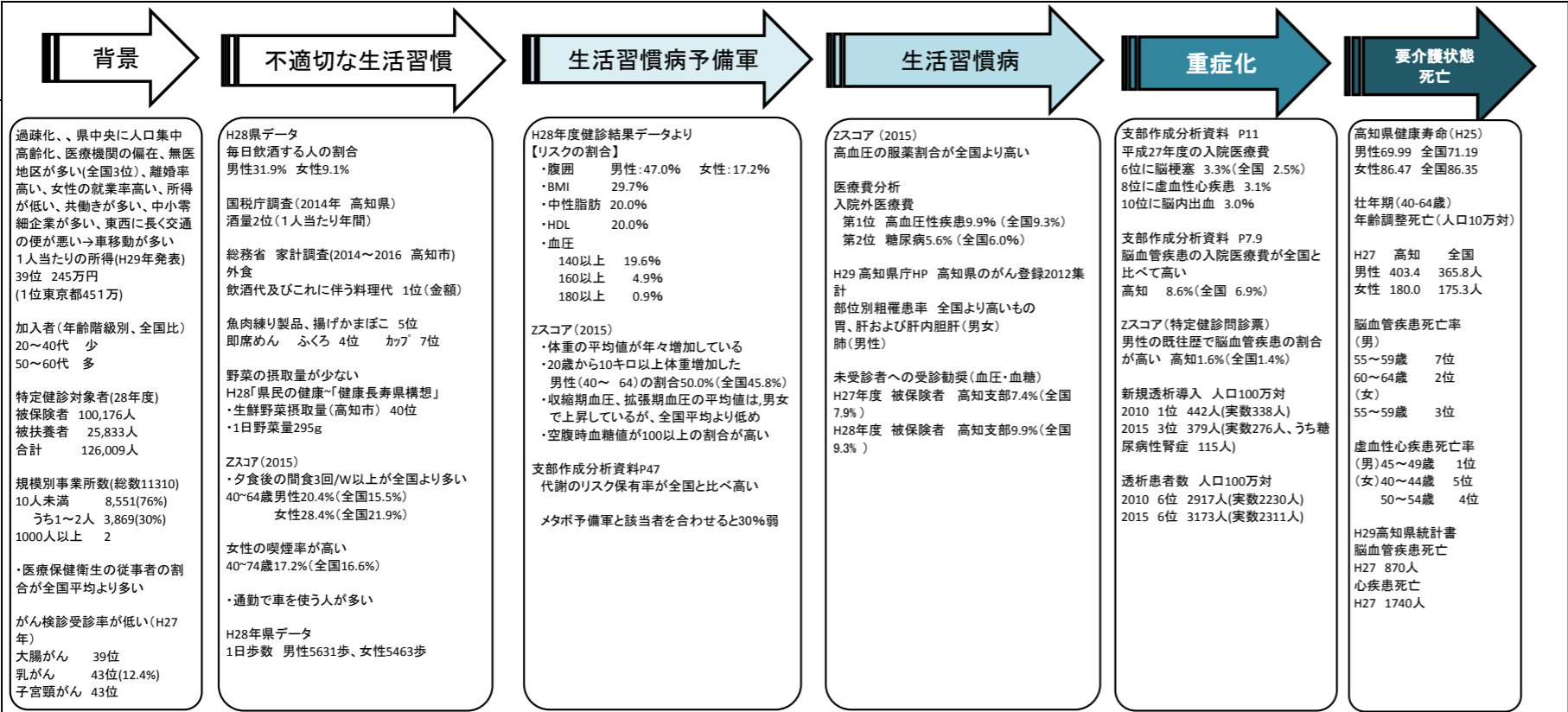
②上位目標を設定する【重大な疾患の発症を防ぐ】(10年以上経過後に達する目標) **壮年期(40~64歳)の脳血管疾患の発症を減らす** → ③中位目標を設定する【検査値等が改善する】(6年後に達成する目標) **壮年期(40~64歳)のⅡ度高血圧の割合がH28年度の5.0%より減る。空腹時血糖値126以上の割合がH28年度の6.1%より減る。**

①対策を図る健康課題を絞る

Zスコア等の分析結果や他情報から健康課題やそれ以外に気になること(自支分の特徴などを診る)

④中位目標達成に近づくための下位目標を設定する

生活習慣や実施率等がどのように変われば期待する成果に近付けるか?(数値目標)



事業名	優先順位	下位目標	実施年度
未治療者受診勧奨	1	未治療者を減らす(受診勧奨対象者割合28年度3.97%より減少)	30~35
	2	特定健診実施率をH35年度65%にする	30~35
健診	3	特定保健指導実施率を35年度35%にする	30~35
保健指導	4	特定保健指導対象者の割合が28年度20.5%より減る	30~35

現状

課題

取り組み

健診結果で異常を指摘されても医療機関を受診する割合が低い。
被扶養者の特定健診受診率が22.1%と低い(被保険者60.8%)。被保険者に対する生活習慣病予防健診の実施率は良いが、被扶養者に対する特定健診の実施率が全国平均ギリギリのところである。被保険者は、会社から勧奨があるが、被扶養者は勧奨される機会がないことや、すでに医療機関を受診しており、必要性がないと考えている。

本人に保健指導を受ける意思がない。中小零細企業が多く、個別に保健指導の時間を割くことができない。
健康に関することは個人に任せているなど、事業所の保健指導の受け入れが悪い。事業所が勧奨すべきことではないと思っている。
特定保健指導の実施率が低い(H28年度速報値10.0%)。血圧、血糖、喫煙のリスク保有率が高い。若い世代へのアプローチが必要。若いうちから健康に意識を持ってもらいたい。
特定保健指導に該当していなくても健診結果に疑問や不安を持っている方がいる。

自分の生活習慣や食習慣、健診結果に無頓着。
Zスコアで20歳から10キロ以上体重増加した人の割合が高い。
運動する時間がとれない。交通機関の便が悪く移動に車を使うため、歩くなどの運動習慣が少ない

加入者との接点が少ない、距離が遠い。事業所とのつながりが薄い。
加入者に対して、協会けんぽからの情報が伝わりにくい。事業所内に架け橋となる人が必要。
協会けんぽの事業を円滑に進めるために、外部の専門家や被保険者の代表などからの意見が必要。県や市町村、関係団体への意見発信は必要。

自覚症状がないため、本人が行動変容に至らない。本人は、受診の必要がないと思っている。
事業所カルテで血圧リスク保有割合が35%と他のリスクより高い。
脳血管疾患の入院医療費が8.6%と高い(全国6.9%)
受診する時間やお金がない。医療機関に行きたくない。困ったときに行けばいいと思っている。
糖尿病の入院外医療費が低く、入院医療費が高い。

生活習慣病予防健診:健診機関における切り替え勧奨、健診実施機関からの勧奨
特定健診:オプション健診、同時実施事業者健診データの提供依頼

特定保健指導 被保険者:外部委託先への協力の依頼、健康宣言事業所への協力依頼
被扶養者:元気アップ教室(グループ支援)の開催
その他保健指導(35歳や希望者)や健康相談実施

各種教室(運動・血圧・健康学習)
広報紙や研修会、保健指導などで訪問した際に勧奨

受診勧奨(血圧・血糖)
文書や電話、訪問による二次勧奨
特定保健指導の訪問時、健診結果で4・5判定(受診が必要と判断)された方に個別面談を依頼

健康宣言事業所で高血圧に取り組む事業所への勧奨(訪問・電話)
高知健康サポート事業とのコラボにより、事業所単位だけでなく、個人にもアプローチ

広報紙(協会けんぽからのお知らせ、KochiTimes、社会保険こうちなどへの寄稿)を活用した情報発信
ホームページやメルマガを活用した情報発信
各種協議会への参加や開催、県や市町村などの協議会へ委員として参加、健康づくり推進協議会の開催